

新図書館建設事業の今後の方針について

1 新図書館新築工事不調後の経過

① 設計業者を通じ建設業界のヒアリングを実施するなど、原因を調査

- 木材・鋼材を始めとする資材価格や労務費が著しく高騰している状況
- 現市場は、「事業者が供給できる工事量」を「建設需要」が大幅に上回るなど、事業者が利益率の高い工事を選別できる「超売り手市場」にある
- 現況下で工事を執行するためには、公共工事積算基準に基づく適正価格を大幅に上回る事業費を見込む必要がある

② ①に記載の状況を踏まえ、令和5年8月21日(月)の市長定例記者会見にて新図書館新築工事の適正な入札時期を見定める旨、発表

③ 市長の発表以降も、ヒアリングや市場の分析を継続

○建築工事	・各種建設資材、人件費の高騰が今後も見込まれる ・立地特性上、コンクリート等のコストが割高となる	
○電気設備工事 ○機械設備工事	・各種建設資材、人件費の高騰が今後も見込まれる ・全国的に設備施工会社の繁忙度が極めて高く、直近で対応できる会社が希少 ・立地特性上、敬遠される傾向にある	
○その他	・再入札時期検討のため、入札参加資格を有する事業者にアンケートを実施	
	静岡・神奈川に事業所を有する経営審査点数 1,500 点以上のゼネコン	24 社
	市内格付Aランクの指名業者(建築一式)	6社
	市内格付Aランクの指名業者(電気工事)	10社
	市内格付Aランクの指名業者(管工事)	11社
	合計	51 社

2 今後の本市新図書館建設に向けた方針

① 現設計のまま、実勢価格との乖離を埋めることは困難で、規模縮小(再設計)を視野に入れる必要がある

② 現計画のコンセプトや概念は維持しつつ、リサイズ(サイズダウン)するための再設計を実施する方向【蔵書スペースの一部縮小や、諸室の統合等によるサイズダウンを図る】

③ 再設計に係る時間・費用の削減に加え、これまで新図書館に携わってくださった方々の想いを無駄にしないためにも、ゼロベースでの設計ではなく、あくまでリサイズ(サイズダウン)する方向

④ 建設資材、人件費の高騰が続く見込みがある中、建築・設備共に各社施工できる可能性が高い時期を見定めた上での入札を執行する必要がある